



公立学校共済組合
四国中央病院

日本医療機能評価機構認定病院

しこく

ホームページアドレス <http://www.shikoku-ctr-hsp.jp/>

第51号

2013年2月

住所: 愛媛県四国中央市川之江町2233番地 TEL(0896)58-3515 FAX(0896)58-3464



画: 窪田 浩

今月のまぐし

- ◇巻頭言
公立学校共済組合四国中央病院の今後の在り方について … 病院長 森本忠興 2・3
- ◇特集1 透析センターの移設 …………… 臨床工学技士 4
- ◇特集2 第4回糖尿病フォーラム…………… 越智千鶴 5
- ◇部署だより わたし達が大切にしている看護
～こころまで見る・チーム医療～ … 北3階師長 石川美保 6
- ◇地域連携だより 開放病床登録医師のご紹介 …………… 7
- ◇新任医師・職員紹介 …………… 7
- ◇院内のできごと・お知らせ …………… 8
- ◇表紙のことば～安らぎのある環境づくり～ …………… 8
- ◇編集後記 …………… 8

病院理念

【真心・信頼・連携・思いやり】

広報誌

しこく

第51号 発行平成25年2月28日
編集 四国中央病院広報・年報委員会
e-mail s-tyuou@shikoku.ne.jp

公立学校共済組合四国中央病院の 今後のあり方について

公立学校共済組合四国中央病院長
森本忠興



新しい年を迎え、早くも1ヶ月を過ぎました。私は、この3月末をもって、4年間務めました病院長を退職し、次期病院長に交代致します。徳島大学で約30年間勤務した者にとりましては、地域医療の厳しさという貴重な経験をさせていただきました。4年間の任期中には、地方病院での勤務医師不足に悩まされ、平成22年4月には病院合併という大きな出来事がありました。地域中核病院形成をスローガンに、愛媛県立三島病院が三島医療センターとして当院と合併し、合併に当たっては国の地域医療再生基金から補助金を受けています。5年間の補助金援助期間途中ではありますが、任期中に積み残した事項の何点かを示し、次期病院長に委ねたいと思います。

まず1点目は、本院、分院統合による地域中核病院建築の計画・実行の時期を定め、これを早期に実現しなければならない事です。我々を取り巻く医療環境は、大変厳しいものが続いております。地域医療の破綻、とくに平成16年の新研修医制度導入以降、医師の地域偏在、診療科偏在、地方大学医局の入局者の激減から大学からの地域病院に対しての医師派遣が困難になっています。この状態の中で、平成22年4月の病院合併以降、本院、分院体制で医療を行っていますが、この体制での非効率性も目立ちます。深刻な問題である医師不足への対策の1つとして、本年2月、本院に新しい透析センターを開設し、分院の透析施設を閉鎖しました。目指すところは地域中核を担う統合新病院ではありますが、それまでの間、本院分院共に地域が必要とする医療機能を維持しなければなりません。そして早い時期に本院、分院統合により医療機能を集約して、地域中核と成り得る新病院建築に向けてのタイムスケジュールを作る事が重要です。これらの問題は、全て並列で進めなければならないことです。

次に、三島医療センターにPETセンター【PET-CT機器を使用したがん診断を中心としたセンター】を開設することです。設置理由は、①四国の二次医療圏の中でもこの地域にはPET-CT導入医療機関がなく、四国中央市の方は他の地域での受診を余儀なくされていること。②本院のがん診療のレベル・アップに役立つこと。③本院職員もPET-CT導入を期待しており、医師のモチベーション維持にも繋がること。④PET-CT導入は大学からも強い要望があり、新規医師採用のきっかけにもなること。このように、PETセンターの設置は、地域医療再生基金を有効利用するものであり、統合新病院開設までの現時点においてもなくてはならないものと考えます。

更に、近隣病院の改築、新築が相次いでおり、医療体制に変化があるかも知れません。できるだけ、新病院建築の時期を早めた方が良いと考えています。重要な点は、新病院の設置場所を現在の三島医療センターのある伊予三島地区にすることです。新病院建築に向けての計画の中で、三島医療センターの PET センターは第一歩となるものであります。愛媛県、保健所、四国中央市等の行政もまた、三島病院移譲の際の約束どおり、伊予三島地区に統合新病院を強く要望しています。

これらの現状を踏まえて、昨年末、当院内に統合新病院検討委員会を設置しました。次期病院長、委員と共に統合新病院に向けての将来計画、タイムスケジュール等の検討を開始しています。委員会の設置は病院内の職員に対して明確に病院の進む方向性を示し、モチベーションの維持を図るためにも必要な事です。また、これらの決定事項を現場の意見として当共済組合本部に持ち上げ、合意を得る事が、計画実現のために重要な点です。

最後に、当病院は、全国 8ヶ所の公立学校共済組合直営病院の中で、昭和 34 年に愛媛県川之江市（現 四国中央市）に開設され、本年度で開設 54 年目となります。当初は、主に公立学校教職員の結核対策を目的とした職域病院として診療が開始されましたが、その後、疾病構造の変化と地域医療の需要に対応して、昭和 41 年に総合病院となっております。今後も、医師確保、施設・機器整備の充実を図り、5 疾病 5 事業に対応した急性期医療を中心とした、地域・職域に貢献できる地域中核病院を目指していただきたいと考えています。

私の病院長としての任期もあり、道半ばですが、後任の病院長に新事業を委ねることになります。最後のお願いを含めて四国中央病院の今後の進む方向性を示させて頂きました。当院が地域医療を担う地域中核病院となるために、私自身も微力ながらも尽力したいと考えておりますが、職員を始め、徳島大学・愛媛大学、愛媛県、四国中央市、また、住民の皆様の強力なご支援・ご協力をお願いします。



2013年2月4日、 新しく南館3階に透析センターがオープンしました

臨床工学技士 山田美香・福原正史・川村英子

部屋全体をホワイト×ウッド基調とし、ホテルのエントランスをイメージしています。U字型のスタッフステーションを中心にベッドを配置し、開放感のある治療室となっています。各ベッドには、アーム式液晶テレビを設置し、TV鑑賞だけでなく教育用映像や検査などの案内などが放映されるようになっています。また、睡眠やTV鑑賞に応じて調光することもできます。



ベッド数は10床から20床に増床しました。リクライニングベッド（ヒーター付）を4床導入し、座位にて読書やデスクワークを行いながら透析治療を受けることが可能となりました。個室（2床）では、急性期の血液浄化療法や血漿交換などの特殊血液浄化療法（アフレスシ）が行え、設備的にはHEPAフィルターを備えた陰圧管理室となっています。車イスに乗ったまま、手洗いや体重測定ができるようになっています。待合室には、琉球畳の和室があり、落ち着いた雰囲気の中で透析治療前後の休憩、食事などをとることができ、楽しい談話が聞こえてきます。

最新鋭の透析用監視装置と日本初の透析液調剤装置・システムを整備し、超純粋透析液（清浄度の高い透析液）の供給とon-line HDF治療も可能となり、透析の質の向上と患者様に応じた治療を提供することができます。自動（D-FAS機能）で開始・終了操作が可能となり、患者様の待ち時間短縮となります。また、透析通信システム（Future Net Web+）による一元管理を行う予定です。

最後に、泌尿器科の先生方のご指導の下、患者様の生活スタイルや病状に合わせた適正な治療法の選択と提供をモットーに、透析室看護師スタッフとともに取り組んでまいります。



第 4 回 四国中央病院糖尿病フォーラム

糖尿病療養指導士 越智 千鶴

世界糖尿病デーのブルーサークルにちなんだ青い電球が点灯するクリスマスツリーが飾られた、平成 24 年 11 月 16 日、糖尿病フォーラムが当院玄関ホールにて開催されました。



測定コーナーでは、例年実施している血圧測定・血糖測定に加え、初めてHbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)の測定を行いました。多くの方が列を作って検査を受けられましたが、糖尿病で治療中の方や血糖値に不安のある方などは検査を受けられなかったためか、全員が正常範囲内という結果であり、一様に安心された様子でした。血圧測定コーナーでは、血圧が上昇するとどれ位の圧力が血管に加わるのかを模型を使って体感していただくことができ、高血圧の危険性を納得される方が多かったです。一方、糖尿病相談コーナーでは「この検査結果をどう見たらよいのか」「親が糖尿病なので、今後どういうことに注意したらよいのか」などの質問があり、糖尿病療養指導士を中心に説明をさせていただきました。

一方、当院セラピストの協力を得て、アロママッサージ／フットケアも同時に実施しました。時間的制約もあったため 10 名限定ということでしたが、このマッサージを目的に来院された方もいるほどであり、施術後は「気持ち良かった」「温まった」など、大変満足された様子でした。また、口腔ケアチームの協力により、口腔ケアの重要性についての啓蒙ポスターを掲示し、口腔ケアグッズの紹介や相談コーナーを担当してもらうことができました。

展示コーナーにおいては、各種パンフレットや冊子を自由に持ち帰ってもらえるようにし、業者による食後血糖値の上昇を抑える特保飲料の試飲コーナーや食品サンプルの展示・配布などを行いました。来院者の多くは、やはり「食」への関心が高い様子で、栄養士が企画した展示物【ジュースや清涼飲料水に含まれる砂糖の量】【1日に食べても良い果物の量】【よく食べるお菓子やアイス・プリンなどのカロリー表示】の前では立ち止まる人が多く、「知らなかった」「食べ過ぎていた」「恐くなった」「間違っていた」などの声が聞かれ、これまでの自分自身の食生活を見直すきっかけになったのではないのでしょうか。

午後からは、三豊総合病院 森本先生を講師にお招きし、「糖尿病と腎臓のお話～透析を予防するために～」と題した市民公開講座には 62 名もの参加をいただき、盛大に開催することができました。その後、当院理学療法士から運動療法についての話があり、講演後残っていただけ 24 名の方々と共に、40kcal消費を目標にラジオ体操第 1・第 2 を行い、爽快感を感じながらイベントを終了することができました。

イベント全体を通し、地域住民への糖尿病療養に関する啓蒙活動を継続・強化していく必要性を改めて感じた一日でした。



わたし達が大切にしている看護 ～こころまで見る・チーム医療～

北3階病棟 石川 美保

24時間患者さんに寄り添い、目で見て手で触れて、会話して感じる。顔色、肌のツヤ、声のハリ。患者さんのいちばん近くにいるからわかるもの。それは時として大切な治療の手がかりになります。カラダだけでなくこころまで見守り支える。

(看護の日ポスターより引用)

北3階病棟は、外科、泌尿器科、耳鼻科、形成外科の病棟です。手術を受ける患者さんの術前・術後の急性期の看護そして終末期の看護まで幅広く行なっています。また今年度は、消化器内科の患者さんの受け入れも行い、内視鏡的治療、化学療法など安全に行なえるよう取り組んできました。北3階病棟の強みは、他職種との連携です。毎週、カンファレンスを行い、患者さんにとって何が最良の方法かということのを他職種で考え、個々に合わせたケアができるようにしています。化学療法を受けている患者さんに食欲がなく食事が取れなければ、栄養士に連絡し、ベッド訪問をお願いし患者さんの希望を取り入れた食事変更を行なっています。化学療法が開始される際には、薬剤師、がん化学療法看護認定看護師とともに副作用についての説明を行なっています。経済的なことがあれば医事課と連携し相談にのってもらいます。不安があり眠れない患者さんがいれば心理療法士にベッド訪問をお願いします。それぞれが専門性を生かし、サポートしています。そして私達看護師は、24時間患者さんの一番近くにおいて、患者さんの変化を早くキャッチし思いを聞き、その思いを大切にしたい看護をしたいと考えています。今年度はがん患者さんやその家族のみなさんが安心して在宅療養を送るために必要な支援体制の整備ということで、緩和ケア研修会に8名のスタッフが参加し、知識を深めるとともに看護実践に活かしています。退院前には患者さん、ケアマネージャーさんと一緒に退院前カンファレンスを開催し情報提供を行なっています。またケアマネージャーさん・訪問看護師さんとの交流会を開催し、事例検討とストーマトラブルの対処法についての勉強会を行ないました。来年度も医療者側の立場からさまざまな情報提供を行なっていきたいと考えています。入院期間の短縮により入院中の指導期間が短く、外来での継続指導が重要となっています。ストーマ外来では病棟の専門の看護師が対応し、退院後のフォローアップを行なっています。今後も患者さんの負担を少なくできるシンプルケアに心がけ、ケアを行っていきたくと考えています。

来年度は病床も増床となり、重症度の高い患者さんの入院の受け入れを行ないます。ますます忙しくなりそうですが、患者さんへの思いやりそしてスタッフ間での思いやりを大切にやさしさあふれる病棟作りをしていきたくと思います。



～ 開放病床登録医師のご紹介【第10回】～

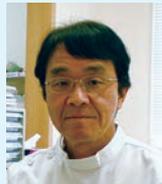
当院の開放病床に登録された先生方からご紹介いただいた患者さんには、ご紹介の先生と当院の医師とが共同で診療を行っており、入院前から一貫した医療をご提供しています。



あんどう整形外科

登録医：安藤正明
住 所：四国中央市土居町小林 1206
電話番号：0896-74-1715
診療科：整形外科、リウマチ科
リハビリテーション科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	×
午後 14:30～18:30	○	○	○	○	○	×	×



大学(医局)の関係で高知県、大阪府および松山市の病院を転々とした後、郷里で平成18年10月に開業しました。本業は整形外科ですが、患者様のご希望で色々な疾患を診ていますので、四国中央病院の整形外科の先生方はもちろん、それ以外の診療科の先生方にも検査や治療などで大変お世話になっています。また、いつでも快く患者様をお引き受けいただき大変ありがたく思っています。趣味は特にありませんが、秋祭りの3日間、太鼓台をかくために、犬の散歩と週1回のソフトバレーで足腰を鍛えています。



ふく整形外科

登録医：福西昭人
住 所：四国中央市土居町中村 1245
電話番号：0896-74-0029
診療科：整形外科、リウマチ科
リハビリテーション科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:00	○	○	◎	○	○	◎	×
午後 14:00～18:30	○	○	—	○	○	□	×

◎午前受付 水曜日・土曜日 12:30まで □午後受付土曜日 16:00まで



当院は平成14年10月土居町で整形外科診療所(無床)として開院いたしまして早10年がたちました。私は新居浜の病院に勤務していた関係もあり宇摩地区のことはよくわかりませんでした。診療所では治療困難な症例や救急患者さんを快く受け入れてくれてとても感謝しておりました。また最近では開放病床など病診連携が充実しており四国中央病院との連携を密にでき、これからの地域医療に貢献できると思われます。これからもよろしくお願ひします。

新任医師のご紹介

(平成24.9～平成24.11月採用者)

西村 光太郎【臨床研修医】 趣味：子育て、スキー、ドライブ

東京→徳島を経て、四国中央市へとやって参りました。縁あって四国中央市には詳しいです。三島宮川に新居を構えております。どうかよろしくお願ひします。

新任職員のご紹介

(平成24.9～平成24.11月採用者)

村尾卓哉【精神保健福祉士】

趣味：釣り、野球

1 日も早く仕事を覚えられるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします。

粟野泰子【看護師(北館 階病棟)】

趣味：温泉めぐり

親切をモットーに多くの患者様に接していけるよう努力いたします。ご指導よろしくお願ひします。

井川育代【看護補助者(三島医療センター)】

趣味：フラダンス

2 月から勤務することになりました。少しでも早く仕事を覚えて、患者様の御役に立ち、スタッフの方々のサポートができるように頑張っていきたいです。よろしくお願ひします。

村上英久【看護師(北館 階病棟)】

趣味：ゴルフ

1 月 1 日から四国中央病院で働くことになりました。男性看護師ではありますが、誰に対しても優しさと思いやりの心を持ち、日々の看護に努めていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

川崎さとみ【看護師(外来)】

趣味：読書

2 月から勤務することになりました。一日も早く仕事に慣れるよう頑張っていきたいと思ひています。どうぞ宜しくお願ひ致します。

前原広美【看護補助者(三島医療センター)】

趣味：音楽鑑賞、ドライブ、温泉旅行

2 月 1 日をもって三島医療センターで勤務することになりました。まだ未熟者ですが、一生懸命頑張ります。慣れるまでご迷惑をお掛けしますが、どうぞよろしくお願ひします。

院内のできごと・お知らせ (H24.12~H25.2)

12月 7日 四国中央病院&三島医療センター合同忘年会
12月21日 院内聖歌隊によるキャンドルサービス



1月22日 第16回市民公開講座
「花粉症のお話—準備は万全？花粉症対策—」
2月22日 第9回院内TQM発表会
2月25日 第4回肝臓病患者の会公開講座
「肝臓病治療薬について」
「医療費について」

第16回市民公開講座 開催のお知らせ

3月14日、15時から四国中央病院 3階講堂におきまして、市民公開講座「アロマのお話し～足の痛みとアロマ療法～」を開催します。参加は無料、予約も必要ありませんが、実体験をご希望の方はバスタオルをご持参ください。

■表紙のことは ~安らぎのある環境づくり~

「医はサイエンスに支えられたアートである」と言った人がいます。病院に来院される患者さんにとって治療と同時に、安らぎのある癒しの環境でありたいと思います。

とかく、病院は無機的で殺風景な空間になりやすい。病気で不安な気持ちで来院されている患者さんにとっては、尚更そう感じることでしょう。そうした患者さんからの声もあり、3年前から看護部では病院外来ロビーに、癒しの空間として絵画や画像詩、季節のオブジェを展示しています。画像詩は「NPO みどりうさぎ」の佐々木さん、片岡さんの協力を得て展示させていただいています。時には立ち止まって展示物を観てくださる人を見かけます。また玄関ロビーでは2ヶ月毎にピアノコンサートを開催し患者さんから好評を得ています。表紙の絵は以前ロビーに展示したものから、土居町天満の漁港の風景を描いた小品です。今は油絵を主に描いていますが、自己主張の強い油絵より、その時の空気が伝わる水彩画が好きです。音楽とアート、五感で安らぎのある環境を感じていただければと願っています。

(文 看護部 窪田 浩)

■編集後記

暦の上では立春を過ぎ、名のみ春の風の冷たさは感じるものの、野や山に春の息吹きが忍び込む季節となりました。

巻頭言は森本病院長にお願いいたしました。このたび4年の任期で退職を迎えられます。在任中は、病院経営や医療安全等における病院改革に尽力された業績は勿論ですが、常に病院職員1人1人に誠実に対応していただいた姿勢を忘れることはできません。本当にご苦労様でした、そして有難うございました。巻頭言の最後に、地域を取り巻く荒波のような厳しい医療環境の中でこの病院が進むべき方向を私達に明確に示していただきました。

念願の透析センターが2月にオープンいたしました。ベッド数も倍増し最先端の機器を導入し、患者さんのアメニティーにも十分に配慮されたセンターは新時代の透析医療を見るようで透析患者さんにとってもこの上ない朗報となりました。

毎年11月の世界糖尿病デーに合わせて行っております「糖尿病フォーラム」も4回目を迎え、市民公開講座と共に地域の中での医療に対する市民への啓蒙活動の一環として着実に根付きつつあります。森本病院長の理念でもあります「市民に対する啓蒙活動」を更に継続・発展させてゆきたいものです。

部署だよりは北3階病棟を紹介させていただきました。混合病棟ではありますが外科系診療を中心に急性期から終末期にいたるまで幅広い看護を行っております。キーワードは多くの他職種との連携。

連携から生まれる信頼と情報で24時間患者の心のケアまで見るチーム医療の実践と継続は大変苦勞の多い毎日でしょうが、それだけやりがいもある部署だと思えました。

今回の表紙は当院の窪田看護師長に絵画の作品をお願いいたしました。風景画を中心に個人的な趣味から始められたとのことですが、病院内にも数点展示しておりますので是非ご鑑賞ください。

もう春です。古い上着は捨て、窓を大きく開き、夢と希望で胸をふくらませて統合新病院建設に向けて私達の船を大海原に出そうではありませんか。

(文責 相原)